

ご利用にあたっての注意事項

- 「メッセージ(MMS/SMS)設定ガイド」「取扱説明書」「ご利用にあたっての注意事項」などを格納して「取扱説明書」に表示します。
- 本書では、FX0(LGL25)を「本製品」または「本体」と表記します。
- 本書では「microSD™メモリーカード」「microSDHC™メモリーカード」および「microSDXC™メモリーカード」の名称を、「microSDメモリーカード」ともしくは「microSD」と省略しています。



2014年12月 第1版
MBM64719402(1/0)

お問い合わせ先番号

お客さまセンター

総合・料金・操作方法について (通話料無料)

受付時間 9:00～20:00 (年中無休)

一般電話からは

0077-7-111 (au電話からは)

157番 (周番号なしの157番)

Pressing "157" will connect you to an operator, after calling "157" on your au cellphone.

紛失・盗難時の回線停止のお手続きについて (通話料無料)

受付時間 24時間 (年中無休)

au電話からは

0077-7-113 (周番号なしの113番)

上記の番号がご利用できない場合、下記の手続きをお話ください。(有料)

0120-977-033 (沖縄を除く地域)

0120-977-699 (沖縄)

PRINTED WITH SOY INK
大豆由来のインクを使用しています

高品質紙を使用しています
Printed in Korea

販売元 KDDI株式会社

沖繩セルラー電話株式会社

輸入元 LG Electronics Japan株式会社

製造元 LG Electronics Inc.

免責事項について

- 地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様のご意思または過失・誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に關して、当社は一切責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生ずる付随的な損害（記録内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に關して、当社は一切責任を負いません。
- 「取扱説明書」の記載内容を参照しないことにより生じた損害に關して、当社は一切責任を負いません。当社が關与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に關して、当社は一切責任を負いません。
- 本製品の故障・修理、その他取り扱いによって、撮影した画像データやダウンロードされたデータなどが変化または消失することがありますが、これらのデータの修復により生じた損害・遺失利益に關して、当社は一切責任を負いません。
- 大切なデータはコンピュータのハードディスクなどに保存しておくことをおすすめします。万一、登録された情報内容が消失・消失してしまうことがあっても、故障や障害の原因にかかわらず当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書で表す「当社」とは、以下の企業を指します。
 - 販売元：KDDI株式会社
 - 沖繩セルラー電話株式会社
 - 輸入元：LG Electronics Japan株式会社
 - 製造元：LG Electronics Inc.

memo
<ul style="list-style-type: none">本書の内容の一部、または全部を無断転載することは、禁止されています。 本書の内容に關して、将来予告なしに変更することがあります。 本書の内容に基づきましては万全を期してありますが、万一、ご不審な点や記載漏れなどお気づきの点がございますら、ご連絡ください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。**
- この「安全上のご注意」には、本製品を使用するお客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、守っていただく重要な事項を記載しています。
- 各事項は以下の区分に分けて記載されています。

表示の説明	
危険	この表示は「人が死亡または重傷 [※] を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
警告	この表示は「人が死亡または重傷 [※] を負うことが想定される内容」を示しています。
注意	この表示は「人が軽傷 [※] を負うことが想定される内容や物的損害 [※] の発生が想定される内容」を示しています。

- ※1 重傷：失明・けが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の入院を要するものを指します。
- ※2 軽傷：治療に入院や長期の入院を要しない、けが・やけど（高温・低温）・感電などを指します。
- ※3 物的損害：家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を指します。

図記号の説明	
	禁止（してはいけないこと）を示す記号です。
	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
	分解してはいけないことを示す記号です。
	水がかかるといけないことを示す記号です。
	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
	電源プラグをコンセントから抜いていただく（強制）内容を示しています。

■本体、電池パック、充電用機器、au Micro IC Card(LTE)、周辺機器共通

⚠️危険 必ず、下記の危険事項をお読みになってからご使用ください。

- 必ず指定の周辺機器をご使用ください。指定の周辺機器以外を使用した場合、発熱・発火・破裂・故障・漏液の原因となります。**
- 高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、かつうちの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で使用、保管、放置しないでください。発火・破裂・故障・火災・傷害の原因となります。**
- ガスリンスなど、引火性ガスが発生する場所に立ち入る場合は、必ず事前に本製品の電源をお切りください。また、充電もしないでください。ガスに引火するおそれがあります。**
- 電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に入れしないでください。発火・破裂・故障・火災・傷害の原因となります。**
- 火の中に入れたり、加熱したしないでください。発火・破裂・火災の原因となります。**

- 外部接続端子やイヤホン端子をショートさせないでください。また、接続端子やイヤホン端子に導電性異物（金属片・鉛筆の芯など）が触れたり、内部に入らないようにしてください。発熱による火災・故障・やけどの原因となります。**
- 金属製のアクセサリーなどを装着している場合は、充電の際に接続端子やコンセントなどに触れないように十分ご注意ください。感電・発火・傷害・故障の原因となります。**
- カメラのレンズに直射日光などを長時間当てないようにしてください。レンズの集光作用により、発火・破裂・火災の原因となります。**
- お客様による分解や改造、修理をしないでください。故障・発火・感電・傷害の原因となります。万一、改造などにより本製品や周辺機器などに不具合が生じても当社は一切の責任を負いかねます。携帯電話の改造は電波法違反になります。**

⚠️警告 必ず、下記の警告事項をお読みになってからご使用ください。

- 落下させる、投げつけるなどの強い衝撃を与えないでください。破裂・発熱・発火・漏液・故障の原因となります。**
- 屋外で雷鳴が聞こえたときは使用しないでください。落雷・感電のおそれがあります。**
- 外部接続端子やイヤホン端子に手や指など身体の一部が触れないようにしてください。感電・傷害・故障の原因となります。**
- 本製品が落下などによって破損し、ディスプレイが割れたり、機器内部が露出した場合、割れたディスプレイや露出した手を触れないようにしてください。感電したり、破損が広がったりする場合があります。auショップまたは安心ケータイサポートセンターまでご連絡ください。**
- 本製品または充電用機器（別売）が濡れている状態で充電を行うと、感電や回路のショート、腐食が発生し、発熱による火災・故障・やけどの原因となります。**

- 水などの液体をかけないでください。また、水やペットの尿などが直接かかる場所や風呂場など湿気の多い場所での使用、または濡れた手での使用は絶対にしていません。感電や電子回路のショート、腐食による故障の原因となります。万一、液体がこぼれた場合には直ちに充電用機器（別売）の電源プラグを抜いてください。水漏れや湿気による故障は、保証の対象外となり有償修理となります。**
- ぬれた手で扱ってはいけないことを示す記号**
- ぬれた手で扱ってはいけないことを示す記号**
- ぬれた手で扱ってはいけないことを示す記号**

- 背面カバーを取り外す際、必要以上に力を入れないでください。電池パックが飛び出すなどして、けがや故障の原因となる場合があります。**
- 自動車や原動機付自転車、自転車などの運転中や歩きながらの操作はしないでください。安全性を損ない、事故の原因となります。**
- 所定の充電時間を超過しても充電が完了しない場合は、充電をおやめください。漏液・発熱・破裂・発火の原因となります。**
- 乳幼児の手の届く場所には置かないでください。小さな部品などの誤飲や窒息したり、誤って落下させたりするなど、事故や傷害の原因となる場合があります。**

⚠️注意 必ず、下記の注意事項をお読みになってからご使用ください。

- 直射日光の当たる場所（自動車内など）や高温になる場所、極端に低温になる場所、湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。発熱・発火・変形・故障の原因となる場合があります。**
- ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。落下してけがや破損の原因となります。パイプレグ設定中は特にご注意ください。また、衝撃などにも十分ご注意ください。**
- 使用中や充電中、に布などが覆ったり、包んだらしないでください。火災・故障・傷害の原因となります。**
- 外部から電源が供給されている状態の本体、指定の充電用機器（別売）に長時間触れないでください。低温やけどの原因となる場合があります。**
- 本製品を長時間ご使用になる場合、特に高温環境では熱くなる場合があります。ご注意ください。長時間に亙り触れたまま使用していると、低温やけどの原因となる場合があります。**
- コンセントや配線器具は定格を超えて使用しないでください。たこ足配線などで定格を超えるなど、発熱による火災の原因となります。**

- 自動車で使用する場合、まれに車載電子機器に影響を与える場合があります。安全走行を損なうおそれがありますので、その場合は使用しないでください。**
- 腐食性の製品のそばや腐食性ガスの発生する場所に置かないでください。故障・内部データの消失の原因となります。**

- 本体から背面カバーを外したまま、放置・保管しないでください。内部にほこりなどの異物が入ると故障の原因となります。**

- 使用中に煙が出たり、異臭や異音が生ずる、過剰に発熱しているなどの異常が起きたときは使用をおやめください。充電中であれば、指定の充電用機器（別売）をコンセントまたはソケットから抜き、熱くないことを確認してから電源を切り、電池パックを外して、auショップまたは安心ケータイサポートセンターまでご連絡ください。また、落下したり、破損した場合は、そのまま使用せず、auショップまたは安心ケータイサポートセンターまでご連絡ください。**

- イヤホンなどを本製品に挿入して使用する場合は、適度な音量に調節してください。音量が大きすぎたり、長時間連続して使用したりすると耳に悪い影響を与えるおそれがあります。また、音量を上すぎると外部の音が聞こえにくくなり、聴切や横断歩道などで交通事故の原因となります。**

- イヤホンなどを本製品に挿入し音量を調節する場合は、少しずつ音量を上げて調節してください。始めから音量を上げすぎると、突然大きな音が出て耳に悪い影響を与えるおそれがあります。**

- 充電用機器や外部機器などをお使いになるときは、接続する端子に対してコネクタをまっすぐに抜き差ししてください。正しい方向で抜き差ししないと、破損・故障の原因となります。**

- お客様がご使用になる場合は、危険な状態にならないように保護者の方が正しい使いかたをご指導ください。また、使用中においても、指示通りに使用しているかをご確認ください。けがなどの原因となります。**

- イヤホンなどを持って本製品を振り回さないでください。けがなどの事故や破損の原因となります。**

■本体について

⚠️警告 必ず、下記の警告事項をお読みになってからご使用ください。

- 自動車・原動機付自転車・自転車運転中に携帯電話を使用しないでください。交通事故の原因となります。自動車・原動機付自転車運転中の携帯電話の使用は法律で禁止されています。また、自転車運転中の携帯電話の使用も法律などで罰せられる場合があります。**
- 病院での使用については、各医療機関の指示に従ってください。使用を禁止されている場所では本製品の電源を切ってください。**
- 電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。自動的に電源が入る機能を設定している場合は、設定を解除してください。**
- 航空機へのご搭乗にあたり、本製品の電源を切るか、機内モードに設定してください。航空機内での使用については制限があるため、各航空会社の指示に従ってください。自動的に電源が入る機能を設定している場合は、設定を解除してください。航空機の電子機器に悪影響を及ぼす原因となります。なお、航空機内での使用において禁止行為をした場合、法令により罰せられることがあります。**

- 電池パックについて**
 - （本製品の電池パックは、リチウムイオン電池です。）**電池パックをお買い上げ時は、十分充電されています。充電してからお使いください。
- 危険 必ず、下記の危険事項をお読みになってからご使用ください。**
- 電池パックのプラス（+）マイナス（-）をショートさせないでください。**
- 禁止**
- 電池パックを本製品に接続するときは、正しい向きで接続してください。誤った向きに接続すると、破裂・火災・発熱の原因となります。また、うまく接続できないときは無理せず、接続部を十分に確認してから接続してください。**
- 釘をさしたり、ハンマーで叩いたり、踏み付たりしないでください。発火や破損の原因となります。**
- 禁止**
- 持ち運ぶ際や保管するときは、金属片（ネックレスやヘアピンなど）などと接続端子が触れないようにしてください。ショートによる発熱・発火・火災・漏液・故障の原因となる場合があります。**
- 分解・改造をしたり、直接ハンダ付けをしないでください。電池パック内部の液が飛び出し、目に入ったりして失明などの事故や発熱・発火・破裂・傷害の原因となります。**
- 禁止**
- 落としたり、踏み付たり、破損や液漏れした電池パックを使用したりしないでください。発熱・発火・漏液・故障・傷害の原因となります。液漏れや異臭がするときは直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液に引火し、発火・破裂の原因となります。**
- 電池パックを水や海水・ペットの尿などで濡らさないでください。電池パックが濡れると発熱・破裂・発火・故障・傷害の原因となります。**
- 発熱・発火・漏液・故障・傷害の原因となります。また、濡らした電池パックは充電をしないでください。**
- 液体漏れして皮膚や衣服に付着した場合は、傷害をおそれますので直ちに水で洗い流してください。また、目に入った場合は失明のおそれがありますので、こすらずに水で洗った後、直ちに医師の診断を受けてください。機器に付着した場合は、液に直接触れないで拭き取ってください。**
- 電池パックは消耗品です。充電しても使用時間が極端に短いなど、機能が回復しない場合には寿命ですのでご使用をおやめになり、指定の新しい電池パックをお買い求めください。発熱・発火・破裂・漏液の原因となります。なお、寿命は使用状態などにより異なります。**
- ペットが電池パックに噛みつかないようご注意ください。電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・火災・傷害などの原因となります。**

- 指示**

- 指示**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

使用箇所	使用材質	表面処理
ディスプレイ	ガラス	コーティング
外装ケース（ディスプレイ枠部）	PC	コーティング
背面カバー	PC	コーティング
音量キー	PC	コーティング
電源キー	PC	コーティング
ホームキー	アクリル	-
受話口	ステンレス鋼	コーティング
カメラレンズ	ガラス	コーティング
カメラレンズ磨り	AL	陽極酸化処理
フラッシュ	PC	-
外部接続端子	ステンレス鋼	ニッケルメッキ

- 禁止**

- 指示**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 指示**

- 禁止**

- 指示**

- 禁止**

- 指示**

- 禁止**

- 指示**

- 指示**

- 電池パックについて**
 - （本製品の電池パックは、リチウムイオン電池です。）**電池パックをお買い上げ時は、十分充電されています。充電してからお使いください。
- 危険 必ず、下記の危険事項をお読みになってからご使用ください。**
- 電池パックのプラス（+）マイナス（-）をショートさせないでください。**
- 禁止**
- 電池パックを本製品に接続するときは、正しい向きで接続してください。誤った向きに接続すると、破裂・火災・発熱の原因となります。また、うまく接続できないときは無理せず、接続部を十分に確認してから接続してください。**
- 釘をさしたり、ハンマーで叩いたり、踏み付たりしないでください。発火や破損の原因となります。**
- 禁止**
- 持ち運ぶ際や保管するときは、金属片（ネックレスやヘアピンなど）などと接続端子が触れないようにしてください。ショートによる発熱・発火・火災・漏液・故障の原因となる場合があります。**
- 分解・改造をしたり、直接ハンダ付けをしないでください。電池パック内部の液が飛び出し、目に入ったりして失明などの事故や発熱・発火・破裂・傷害の原因となります。**
- 禁止**
- 落としたり、踏み付たり、破損や液漏れした電池パックを使用したりしないでください。発熱・発火・漏液・故障・傷害の原因となります。液漏れや異臭がするときは直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液に引火し、発火・破裂の原因となります。**
- 電池パックを水や海水・ペットの尿などで濡らさないでください。電池パックが濡れると発熱・破裂・発火・故障・傷害の原因となります。**
- 発熱・発火・漏液・故障・傷害の原因となります。また、濡らした電池パックは充電をしないでください。**
- 液体漏れして皮膚や衣服に付着した場合は、傷害をおそれますので直ちに水で洗い流してください。また、目に入った場合は失明のおそれがありますので、こすらずに水で洗った後、直ちに医師の診断を受けてください。機器に付着した場合は、液に直接触れないで拭き取ってください。**
- 電池パックは消耗品です。充電しても使用時間が極端に短いなど、機能が回復しない場合には寿命ですのでご使用をおやめになり、指定の新しい電池パックをお買い求めください。発熱・発火・破裂・漏液の原因となります。なお、寿命は使用状態などにより異なります。**
- ペットが電池パックに噛みつかないようご注意ください。電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・火災・傷害などの原因となります。**

- 指示**

- 指示**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 禁止**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

- 指示**

-

microSDメモリーカードの取り付け・取り外しの際に、必要以上の力を入れないでください。手や指を傷付ける場合があります。

- microSDメモリーカードのデータ書き込み中や読み出し中に、振動や衝撃を与えたり、電池パックを取り外したり、電源を切ったりしないでください。データの消失・故障の原因となります。

- 受話音声を聞きながらときは、受話口が耳の中央に当たらないようにしてお使いください。受話口（音声孔）が耳周りにふさがれて音声が聞きづらくなる場合があります。

- 送話口/マイクをおおって相手の方に声が伝わらないようにしても、相手の方に声が伝わりますのでご注意ください。

- ハンズフリー通話をご使用の際はスピーカーから大きな音が出る場合があります。耳から十分に離すなど、注意してください。

- 送話口/マイクを指などでふさがれないようご注意ください。自分の声が相手に伝わらない場合や、音声が録音できない場合、音声が認識されない場合があります。

- 近接センサーの上シールなどを貼ると、センサーが誤動作し着信中や通話中にディスプレイの表示が常に消え、操作が反応しなくなる場合がありますのでご注意ください。

■ タッチパネルについて

タッチパネル操作は指で行ってください。ボールペンや鉛筆など先が鋭いもので操作しないでください。正しく動作しない原因として、ディスプレイへの傷の発生や、破損の原因となる場合があります。

- ディスプレイにシールやシート類（市販の保護フィルムや発着見防止シートなど）を貼らないでください。タッチパネルが正しく動作しない原因となる場合があります。

- 爪先でタッチパネル操作をしないでください。爪が割れたり、突き指などだけが原因となる場合があります。

- ディスプレイ表面が汚れている、汗や水で濡れている、誤動作の原因となります。その場合は柔らかい布でディスプレイ表面を乾拭きしてください。

- ポケットやかばんなどに入れて持ち運ぶ際は、タッチパネルに金属などの伝導性物質が近づいた場合、タッチパネルが誤動作する場合がありますのでご注意ください。

■ 電池パックについて

- 夏期、閉めきった自動車内に放置するなど、極端な高温や低温環境では電池パックの容量が低下し、ご利用できる時間が短くなります。また、電池パックの寿命も短くなります。できるだけ、常温でお使いください。

- 長期間使用しない場合は、本体から電池パックを外し、高温多湿を避けて保管してください。

- 初めてお使いのときや、長時間ご使用にならなかったときは、ご使用前に充電してください。

- 電池パックは消耗品です。充電しても機能が回復しない場合は寿命ですので、指定の電池パックをご購入ください。なお、寿命是使用形態などによって異なります。

- 通常のゴミと一緒に捨てないでください。環境保護と資源の有効利用をはかるため、不燃となった電池パックの回収にご協力ください。auショップなどで使用済み電池パックの回収を行っております。

- 電池パックは、ご使用条件により寿命が近づくにつれて減れる場合があります。これはリチウムイオン電池の特性であり、安全上の問題はありません。

■ 充電用機器について

- ご使用にならなうときは、指定の充電用機器（別売）の電源プラグをコンセントまたはシガーライター cigaret から外してください。

- 指定の充電用機器（別売）の電源コードを充電用機器本体に巻きつけないでください。感電・発熱・火花・故障・傷害の原因となります。

- 指定の充電用機器（別売）の電源プラグやコネクタと電源コードの接続部を無理に曲げたりしないでください。感電・発熱・火花・故障・傷害の原因となります。

■ au Micro IC Card(LTE)について

- au Micro IC Card(LTE)は、auからお客様にお貸し出ししたものになります。紛失・破損の場合は、有償交換となりますのでご注意ください。なお、故障と思われる場合、盗難・紛失の場合は、auショップもしくはPiPiまでお問い合わせください。

- au Micro IC Card(LTE)の取り外し、および挿入時には、必要以上に力を入れないようにしてください。ご使用になるau電話へは必要以上の負荷がかからないようにしてください。

- ほかのICカードリーダー/ライターなどに、au Micro IC Card(LTE)を挿入して故障した場合は、お客様の責任となりますのでご注意ください。

- au Micro IC Card(LTE)のIC（金属）部分はいつもきれいな状態でご使用ください。お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。

- au Micro IC Card(LTE)にシールなどを貼らないでください。

- 交換アダプタを取り付けたICカードを挿入しないでください。故障の原因になります。

■ カメラ機能について

- カメラ機能をご使用の際は、一般的なモラルをお守りのうえご利用ください。

- 本製品の故障・修理・その他の取り扱いによって、撮影した画像データが変化または消失することがあり、この場合、当社は変化または消失したデータの修復や、データの変化または消失によって生じた損害、逸失利益について一切の責任を負いません。

- 大切な撮影（結婚式など）をするときは、試し撮りや、画像を再生して正しく撮影されていることをご確認ください。

- 販売されている書籍や、撮影の許可されていない情報の記録には使用しないでください。

- カメラのレンズに直射日光が当たる状態を放置しないでください。素子の退色・焼付けを起こすことがあります。

■ 音楽／動画機能について

- 自動車や原動機付自転車、自転車などの運転中は、音楽や動画を視聴しないでください。自動車・原動機付自転車運転中の携帯電話の使用は法律で禁止されています（自転車運転中の使用も法律などで罰せられる場合があります）。また、歩行中でも周囲の交通に十分ご注意ください。周囲の音が聞こえにくく、表示に気を取られ交通事故の原因となります。特に歩道、駅のホームや横断歩道ではご注意ください。

- 耳を刺激するような大きな音や長時間続けて聴くと、聴きに悪い影響を与えることがありますのでご注意ください。

- 電車の中など周囲に入っている場合には、イヤホンなどからの音源れご注意ください。

■著作権／肖像権について

- お客様が本製品で撮影・録音したデータやインターネット上からダウンロードなどで取得したデータの全部または一部が、第三者の有する著作権で保護されている場合、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で複製、頒布、公送発表、改変などはできません。また、他人の肖像や氏名を無断で使用・改変などをすると肖像権の侵害となるおそれがありますので、そのようなご利用も控えください。なお、実演や興行、展示物などでは、個人で楽しむなどの目的であっても、撮影・録音を制限している場合がありますのでご注意ください。

- 撮影した画像などをインターネットホームページなどで公開する場合は、著作権や肖像権に十分に注意ください。

■本製品の記録内容の控え作成的お願い

- ご自分でも本製品に登録された内容や、外部から本製品に取り込んだ内容で、重要なものは控え*をお取りください。本製品のメモリは、静電気・故障などの不測の要因や、修理・誤った操作などにより、記録内容が消えたり変化する場合があります。

- *控え作成の手段：連絡先のデータや音楽データ、撮影した静止画や動画など、重要なデータはmicroSDメモリーカードに保存しておいてください。または、メールに添付して送信したり、パソコンに転送しておいてください。ただし、上記の手段でも控えが作成できないデータがあります。あらかじめご了承ください。

ご利用いただく各種暗証番号について
<p>本製品をご使用いただく場合に、各種の暗証番号をご利用いただけます。ご利用いただく暗証番号は次のとおりとなります。設定された各種の暗証番号は各種操作・ご契約に必要となりますので、お忘れにならないようご注意ください。</p>

● 暗証番号
<p>使用例</p> <ul style="list-style-type: none">① お留守番サービス、着信転送サービスを一般電話から遠隔操作する場合 ② お客さまセンター音声応答、auホームページでの各種検索・申込・変更をする場合
<p>初期値　申込書にお客様が記入した任意の4桁の番号</p>

● PINコード
<p>使用例　第三者によるau Micro IC Card(LTE)の無断使用を防ぐ場合</p>
<p>初期値　1234</p>

● プライバシーを守るための機能について
<p>保存されているデータのプライバシーを守るために、本製品には次のような機能が用意されています。</p>

機能	説明
画面ロック	起動時や画面ロックの解除方法にパスワードを設定することにより、データを安全に保護できます。

● PINコードについて
<p>■ PINコード</p> <p>第三者によるau Micro IC Card(LTE)の無断使用を防ぐために、電源を入れるたびにPINコードの入力を必要にすることがあります。また、PINコードの入力要件を設定する場合には入力が必要となります。PINコードは3回連続で間違えるとコードがロックされます。ロックされた場合は、PINロック解除コードを利用して解除できます。</p> <ul style="list-style-type: none">お買い上げ時のPINコードは「1234」、入力要否は「入力不要」に設定されていますが、お客様の必要に応じてPINコードは4～8桁のお好きな番号、入力要否は「入力必要」に変更できます。

- PINロック解除コード**
- PINコードがロックされた場合に入力することでロックを解除できます。
- PINロック解除コードは、au Micro IC Card(LTE)が取り付けられていたプラスチックカード裏面に印刷されている8桁の番号で、お買い上げ時にはすでに決められています。
 - PINロック解除コードを入力した場合は、新しくPINコードを設定してください。
 - PINロック解除コードを10回連続で間違えた場合は、auショップ・PiPiもしくはお客さまセンターまでお問い合わせください。
 - 「PINコード」はデータの初期化を行ってもリセットされません。

Bluetooth®／無線LAN (Wi-Fi®) 機能について
<ul style="list-style-type: none">本製品のBluetooth®機能および無線LAN (Wi-Fi®) 機能は、日本国内規格、FCC規格およびIEC指針に準拠し、認証を取得しています。 本製品の5GHz帯無線LAN (Wi-Fi®) 機能は日本国内での無線規格に準拠し、認証を取得しています。海外でごご利用になると罰せられることがあります。 無線LAN (Wi-Fi®) やBluetooth®機器が使用する2.4GHz帯は、さまざまな機器が運用されています。場合によっては他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断することがあります。 電気製品・AV・OA機器などの電磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなる場合があります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。 近く、ラジオなどの近くで使用すると受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。 Apple社に複数の無線LAN (Wi-Fi®) アクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。 航空機内での使用については制限があるため、各航空会社の指示に従ってください。 通信機器間の距離や障害物、接続する機器により、通信速度や通信できる距離は異なります。

2.4GHz帯ご使用上の注意

本製品のBluetooth®機能／無線LAN (Wi-Fi®) 機能は2.4GHz帯を使用します。この周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、ほかの同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「ほかの無線局」と略す）が運用されています。

- 本製品を使用する前に、近くで「ほかの無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本製品と「ほかの無線局」との間に電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに本製品の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の放射を停止）してください。
- ご不明な点やその他のお困りのことが起きた場合は、auショップもしくはお客さまセンターまでご連絡ください。

memo
<ul style="list-style-type: none">本製品はすべてのBluetooth®・無線LAN (Wi-Fi®) 対応機器との接続動作を確認したものではありません。したがって、すべてのBluetooth®・無線LAN (Wi-Fi®) 対応機器との動作を保証するものではありません。 無線通話時のセキュリティとして、Bluetooth®・無線LAN (Wi-Fi®) の標準仕様で準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、使用環境および設定内容によってはセキュリティが十分にない場合が考えられます。Bluetooth®・無線LAN (Wi-Fi®) によるデータ通信を行う際はご注意ください。 無線LAN (Wi-Fi®) は、電波を利用して情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者により不正に入力されるなどの行為がなされるようになっておきます。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、使用することを推奨します。 Bluetooth®・無線LAN (Wi-Fi®) 通信時に発生したデータおよび情報の漏洩につきましては、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。 Bluetooth®・無線LAN (Wi-Fi®) は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用する電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断する場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth®・無線LAN (Wi-Fi®) のいずれかの使用を中止してください。

本製品のBluetooth®機能および無線LAN (Wi-Fi®) 機能は、2.4GHz帯の周波数を使用します。

RF 電磁波

- Bluetooth®機能：2.4FH1

本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、干渉距離は約10m以下です。
- 無線LAN (Wi-Fi®) 機能：2.4DS/OF4

本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS方式およびOFDM方式を採用しています。干渉距離は約40m以下です。
- 使用帯域：全帯域

全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。
- 利用可能なチャンネルは、国により異なります。
- 航空機内での使用は、事前に各航空会社へ確認ください。

■ Bluetooth®機能：2.4FH1
<p>本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、干渉距離は約10m以下です。</p>
<p>● 無線LAN (Wi-Fi®) 機能：2.4DS/OF4</p> <p>本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS方式およびOFDM方式を採用しています。干渉距離は約40m以下です。</p>

- 使用帯域：全帯域

全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。
- 利用可能なチャンネルは、国により異なります。
- 航空機内での使用は、事前に各航空会社へ確認ください。

■ HT20
<p>W52 (5.2GHz帯 / 36, 40, 44, 48ch)</p> <p>W53 (5.3GHz帯 / 52, 56, 60, 64ch)</p> <p>W56 (5.6GHz帯 / 100, 104, 108, 112, 116, 120, 124, 128, 132, 136, 140ch)</p>

■ HT40
<p>W52 (5.2GHz帯 / 38, 46ch)</p> <p>W53 (5.3GHz帯 / 54, 62ch)</p> <p>W56 (5.6GHz帯 / 102, 110, 118, 126, 134ch)</p>

■ HT20
<p>W52 (5.2GHz帯 / 36, 40, 44, 48ch)</p> <p>W53 (5.3GHz帯 / 52, 56, 60, 64ch)</p> <p>W56 (5.6GHz帯 / 100, 104, 108, 112, 116, 120, 124, 128, 132, 136, 140ch)</p>
<p>■ HT40</p> <p>W52 (5.2GHz帯 / 38, 46ch)</p> <p>W53 (5.3GHz帯 / 54, 62ch)</p> <p>W56 (5.6GHz帯 / 102, 110, 118, 126, 134ch)</p>

■ パケット通信料についてのご案内

- 本製品は常時インターネットに接続される仕様であるため、アプリケーションなどにより自動的にパケット通信が行われる場合があります。このため、ご利用の際はパケット通信料が高額になる場合がありますので、パケット通信料定額／割引サービス等のご加入をおすすめします。

- 本製品でのホームページ閲覧や、アプリケーションなどのダウンロード、アプリケーションによる通信、Eメールの送受信、各種設定を行う場合に発生する通信はインターネット経由での接続となり、パケット通信は有料となります。

- ※ 無線LAN (Wi-Fi®) 接続の場合はパケット通信料はかかりません。

■ IEEE802.11 b/g/n
<p>■ IEEE802.11 a/n</p>
<p>■ W52 W53 W56</p>

■ アプリケーションについて

- アプリケーションのインストールは安全であることを確認のうえ、自己責任において実施してください。アプリケーションによっては、ウイルスへの感染や各種データの破壊、お客様の位置情報や利用履歴、携帯電話内に保存されている個人情報などがインターネットを通じて外部に送信される可能性があります。

万一、お客様がインストールを行ったアプリケーションなどにより不具合が生じた場合、当社では責任を負いかねます。この場合、保証期間内であっても有償修理となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- お客様がインストールを行ったアプリケーションなどにより、お客様ご自身または第三者への不利益が生じた場合、当社では責任を負いかねます。

- アプリケーションによっては、microSDメモリーカードをセットしていないとご利用できない場合があります。

アプリケーションの中には動作中スリープモードに入らなくなったり、バックグラウンドで動作して電池の消耗が激しくなるものがあります。

- 本製品に搭載されているアプリケーションやインストールしたアプリケーションは、アプリケーションのバージョンアップによって操作方法や画面表示が予告なく変更される場合があります。また、本書に記載の操作と異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。

携帯電話機の比較収率（SAR）について

この機能【LGL25】の携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。この携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準*ならびに、これと同様な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関（WHO）と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。

国の技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比較収率（SAR：Specific Absorption Rate）で定めおり、携帯電話機に対するSARの許容値は2.0W/kgです。この携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.492W/kg、身体に装着した場合のSARの最大値は0.906W/kgです。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもあります

が、いずれも許容値を満足しています。携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話等を行っている状態では、通常SARはより小さい値となります。一般的には、基地局までの距離が近いほど、携帯電話機の出力は小さくなります。

この携帯電話機は、側頭部以外の位置でも使用可能です。キャリングケース等のアクセサリーをご使用することで、身体から15センチ以上離し、かつその間は金属（部分）が含まれないようにしてください。このことにより、本携帯電話機が国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合していることを確認しています。

世界保健機構は、「携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。」と表明されています。

さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は世界保健機構のホームページをご参照ください。http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/fact_japanese.htm

SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

○総務省のホームページ:
<p>http://www.tele.soumu.go.jp/j/e/e/index.htm</p>
<p>○丸の内通信販売のホームページ:</p> <p>http://www.arib-emf.org/index02.htm</p>
<p>○auのホームページ:</p> <p>http://www.au.kddi.com/</p>
<p>○LG Electronics Inc.のホームページ:</p> <p>本製品の「仕様」のページをご確認ください。</p> <p>http://www.lg.com/j/mobile-phone（URLは予告なく変更される場合があります。）</p>

※ 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の2）で規定されています。

○LG Electronics Inc.のホームページ:
<p>本製品の「仕様」のページをご確認ください。</p> <p>http://www.lg.com/j/mobile-phone（URLは予告なく変更される場合があります。）</p>

- Bluetooth®機能：2.4FH1

本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、干渉距離は約10m以下です。
- 無線LAN (Wi-Fi®) 機能：2.4DS/OF4

本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS方式およびOFDM方式を採用しています。干渉距離は約40m以下です。
- 使用帯域：全帯域

全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。
- 利用可能なチャンネルは、国により異なります。
- 航空機内での使用は、事前に各航空会社へ確認ください。

- Bluetooth®機能：2.4FH1

本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、干渉距離は約10m以下です。
- 無線LAN (Wi-Fi®) 機能：2.4DS/OF4

本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS方式およびOFDM方式を採用しています。干渉距離は約40m以下です。
- 使用帯域：全帯域

全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。
- 利用可能なチャンネルは、国により異なります。
- 航空機内での使用は、事前に各航空会社へ確認ください。

- Bluetooth®機能：2.4FH1

本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、干渉距離は約10m以下です。
- 無線LAN (Wi-Fi®) 機能：2.4DS/OF4

本製品は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS方式およびOFDM方式を採用しています。干渉距離は約40m以下です。
- 使用帯域：全帯域

全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。
- 利用可能なチャンネルは、国により異なります。
- 航空機内での使用は、事前に各航空会社へ確認ください。

○LG Electronics Inc.のホームページ:
<p>本製品の「仕様」のページをご確認ください。</p> <p>http://www.lg.com/j/mobile-phone（URLは予告なく変更される場合があります。）</p>

※ 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の2）で規定されています。

○LG Electronics Inc.のホームページ:
<p>本製品の「仕様」のページをご確認ください。</p> <p>http://www.lg.com/j/mobile-phone（URLは予告なく変更される場合があります。）</p>

■ Declaration of Conformity

The product 'LGL25' is declared to conform with the essential requirements of European Union Directive 1999/5/EC Radio and Telecommunications Terminal Equipment Directive 3.1 (a), 3.1 (b) and 3/2.

This mobile phone complies with the EU requirements for exposure to radio waves. Your mobile phone is a radio transceiver, designed and manufactured not to exceed the SAR* limits** for exposure to radio-frequency (RF) energy, which SAR* value, when tested for compliance against the standard was 0.379 W/kg at the ear, and 0.808 W/kg when worn on the body. To comply with the RF Exposure limits a distance of greater than 1.5 cm must be maintained from the user’s body.

While there may be differences between the SAR* levels of various phones and at various positions, they all meet*** the EU requirements for RF exposure.

- * The exposure standard for mobile phones employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.
- ** The SAR limit for mobile phones used by the public is 2.0 watts/kilogram (W/kg) averaged over ten grams of tissue, recommended by The Council of the European Union. The limit incorporates a substantial margin of safety to give additional protection for the public and to account for any variations in measurements.
- *** Tests for SAR have been conducted using standard operating positions with the phone transmitting at its highest certified power level in all tested frequency bands. Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR level of the phone while operating can be well below the maximum value. This is because the phone is designed to operate at multiple power levels so as to use only the power required to reach the network. In general, the closer you are to a base station antenna, the lower the power output.

■ European Union Directives Conformance Statement

■ CE01680

Hereby, LG Electronics Inc. declares that this product is in compliance with:

- The essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC
- All other relevant EU Directives

The above gives an example of a typical Product Approval Number.

Wi-Fi(WLAN)	This device is intended for sale in Japan only. This equipment may be operated in all European countries. The 5150 - 5350 MHz band is restricted to indoor use only.
--------------------	--

Important Safety Information

AIRCRAFT
Switch off your wireless device when boarding an aircraft or whenever you are instructed to do so by airline staff. If your device offers a "flight mode" or similar feature consult airline staff as to whether it can be used on board.

DRIVING
Full attention should be given to driving at all times and local laws and regulations restricting the use of wireless devices while driving must be observed.

HOSPITALS
Mobile phones should be switched off wherever you are requested to do so in hospitals, clinics or health care facilities. These requests are designed to prevent possible interference with sensitive medical equipment.

PETROL STATIONS
Obey all posted signs with respect to the use of wireless devices or other radio equipment in locations with flammable material and chemicals. Switch off your wireless device whenever you are instructed to do so by authorized staff.

INTERFERENCE
Care must be taken when using the phone in close proximity to personal medical devices, such as pacemakers and hearing aids.

Pacemakers
Pacemaker manufacturers recommend that a minimum separation of 15 cm be maintained between a mobile phone and a pacemaker to avoid potential interference with the pacemaker. To achieve this use the phone on the opposite ear to your pacemaker and do not carry it in a breast pocket.

Hearing Aids
Some digital wireless phones may interfere with some hearing aids. In the event of such interference, you may want to consult your hearing aid manufacturer to discuss alternatives.

NOTE : Excessive sound pressure from earphones and headphones can cause hearing loss.

 To prevent possible hearing damage, do not listen at high volume levels for long periods.

For other Medical Devices: Please consult your physician and the device manufacturer to determine if operation of your phone may interfere with the operation of your medical device.

CAUTION
RISK OF EXPLOSION IF BATTERY IS REPLACED BY AN INCORRECT TYPE. DISPOSE OF USED BATTERIES ACCORDING TO THE INSTRUCTIONS.

FCC Notice
<p>This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.</p>

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help and for additional suggestions.

Warning
The user is cautioned that changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user’s authority to operate the equipment.

Body-worn Operation

This phone was tested for typical body-worn operations with the back of the phone kept at a distance of 1.5 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.5 cm separation distance between your body and the back of the phone. The use of belt clips, holsters and similar accessories should not contain metallic components.

The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.

The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels